

平成 26 年 9 月 11 日

独立行政法人国民生活センター

iPS 細胞・STAP 細胞の関連事業をかたった詐欺的トラブルにご注意！ —話題性のある出来事に便乗して、高齢者を狙う悪質な手口—

iPS 細胞に関連した事業への投資などをかたった詐欺的トラブルに関する相談が、高齢者を中心に多く寄せられています。また最近では、STAP 細胞に関連した相談も寄せられ始めています。特に多く見られる手口は、複数の業者が役回りを分担して消費者をだまそうとする「劇場型勧誘（買え買え詐欺）」です。

悪質業者は、今話題になっている出来事を悪用して近づいてきます。話題性のあるニュースや事件に便乗した詐欺には十分に注意が必要です。

1. 相談事例

【事例 1】iPS 細胞の関連事業をかたった買え買え詐欺

証券会社を名乗る者から電話があり「ご主人が iPS 細胞を手掛けている A 社の株を買う権利に当選した」と言われたので、こちらから断って電話を切った。

その後すぐに A 社から電話があり「1,000 万円分の株の購入ありがとうございます」と言われた。驚いて「買っていません」と言うと、「すでに名義貸しをされている。権利証や念書を送るので返送するように」と言われたので、「買っていない株の権利証はいらない」と断った。

数日後、再び A 社から電話があり「解約するのに 250 万円が必要だ。立て替えてくれれば数日後に返金する」と言われた。返金してくれるならよいと思い、金融機関からお金をおろし、宅配便で個人あてに 250 万円を送った。

さらに数日後、A 社からまた電話があり「名義貸しで株を購入したことが監査で問題になっている。ご主人の口座が差し押さえや凍結になる」などと言われた。どうしたらよいか。

(2014 年 5 月受付 契約当事者：60 歳代 女性 静岡県)

【事例 2】STAP 細胞の関連事業をかたった買え買え詐欺

大手証券会社を名乗る男性から電話があり、「STAP 細胞の関連会社が貴市に進出する。その会社の社債を購入できる候補者 1,000 人の中にあなたの名前がある」と言われた。「興味がない」と断ったが、後日、再び同じ男性から電話があり、「興味がないなら、購入できる権利を当社に譲ってほしい。あなたにお金がかかる話ではない」と言われた。

テレビなどで見聞きした詐欺の被害者の話と同じだと思い、「返事ができない」と言ったら、乱暴に電話が切れた。どうしたらよいか。

(2014 年 6 月受付 契約当事者：70 歳代 女性 群馬県)

2. 消費者へのアドバイス

(1) 話題性のある出来事に便乗した詐欺に注意する

悪質業者は、今話題になっている出来事を悪用して近づいてきます。iPS細胞やSTAP細胞の他にも、東京オリンピックや企業の個人情報漏えいなど、話題性のあるニュースや事件に便乗した詐欺には十分に注意してください。

(2) 劇場型勧誘（買え買え詐欺）の電話がかかってきたら、すぐに電話を切る

「代わりに買ってくれたら高値で買い取る」「立て替えてくれれば後で返金する」「名義を貸してくれたら謝礼を払う」「あなたの名前で買った」などと持ちかけてくる「劇場型勧誘（買え買え詐欺）」には特に注意が必要です。こうした勧誘の電話がかかってきたら、相手にせずにすぐに電話を切ってください。

(3) 消費生活センターに相談する

少しでも不安を感じたら、お金を払う前にすぐにお近くの消費生活センター等に相談してください。

3. 情報提供先

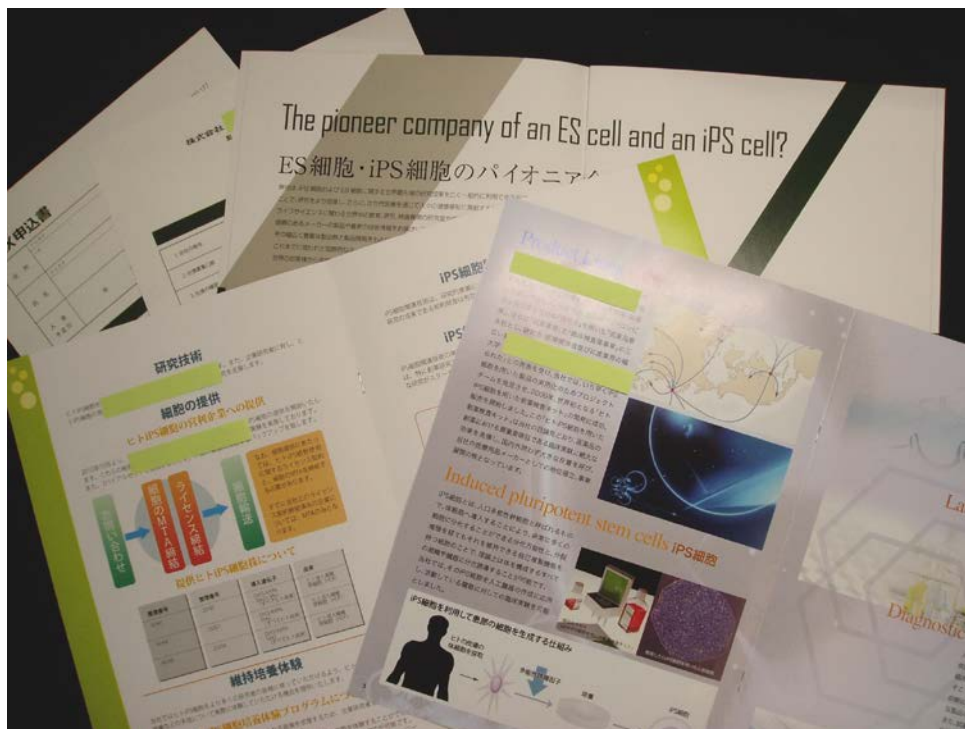
消費者庁消費者政策課

内閣府消費者委員会事務局

警察庁生活安全局生活経済対策管理官

警察庁刑事局捜査第二課

参考① 消費者のもとに送付されたパンフレットの例



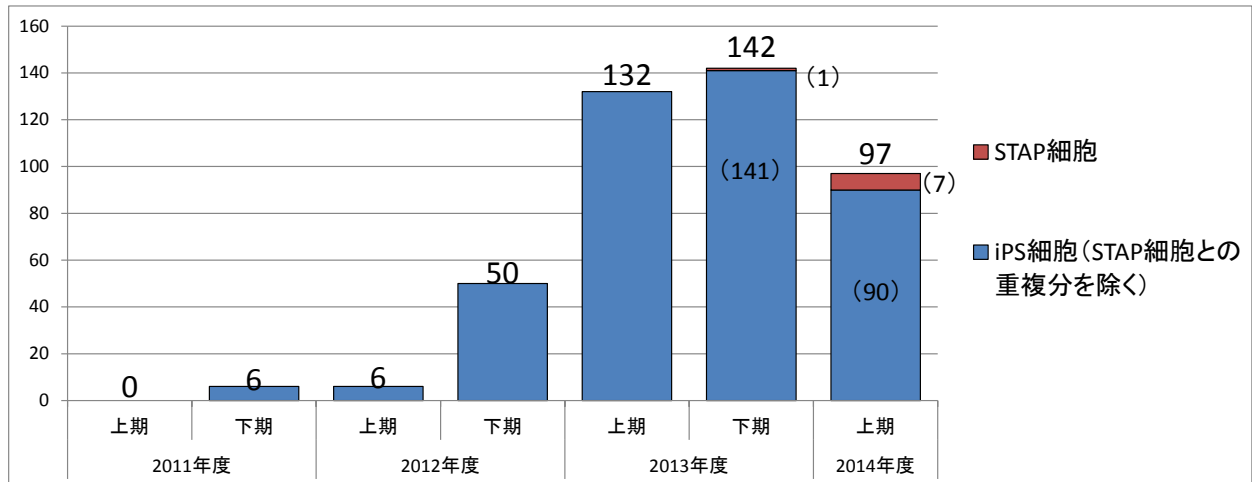
参考② PI0-NET からみた相談の傾向¹

(1) 相談件数の推移—2014年に入り STAP細胞に関連したトラブルもみられ始める—

iPS細胞に関連した詐欺的トラブルに関する相談は2013年度に急増し、2011年度下期以降これまでに寄せられた相談は425件（STAP細胞との重複分を除く）となっています。

また、STAP細胞に関連した詐欺的トラブルの相談は2014年に入ってから寄せられ始め、これまでの相談は8件です。なお、両者の合計は433件です（図1）。

図1 iPS細胞・STAP細胞に関連した詐欺的トラブルに関する相談件数（2011年度以降）



(注) 件数は、iPS細胞またはSTAP細胞に関連した詐欺的トラブルの合計値（重複分を除いてカウント）。括弧内はそれぞれの内訳の件数（ただしiPS細胞についてはSTAP細胞との重複分を除いてカウント）。

(2) 契約当事者の属性—約9割が60歳以上—

契約当事者の年代をみると、60歳以上の高齢者が全体の約9割を占めており、高齢者によるトラブルが非常に多いことがわかります（図2）。性別ごとにみると、女性が8割を占めています（図3）。

また、地域別では、南関東（96件）が最も多く、ついで近畿（78件）、山陽（50件）が多くなっています。

図2 契約当事者の年代別の割合

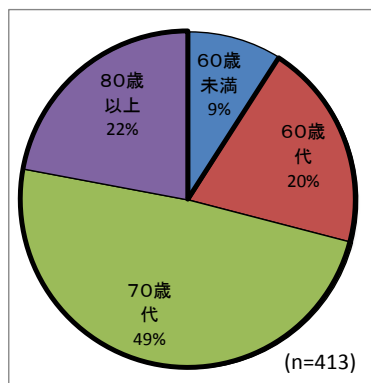
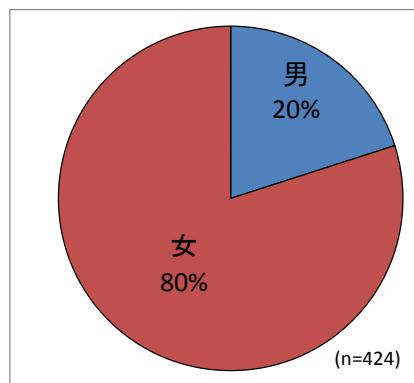


図3 契約当事者の性別の割合

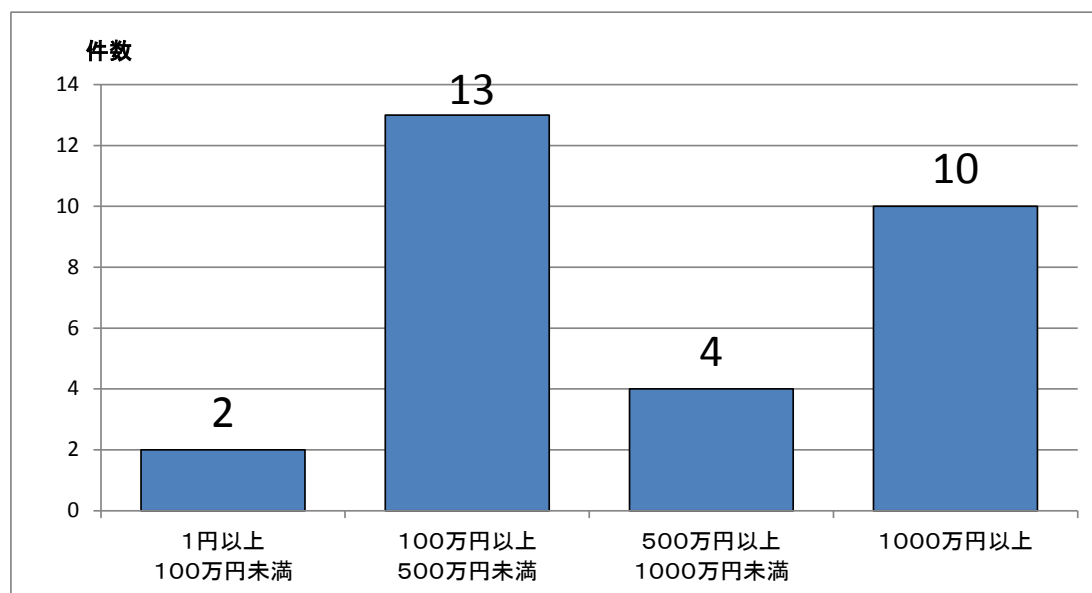


¹ PI0-NET（バイオネット：全国消費生活情報ネットワーク・システム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する情報を蓄積しているデータベースのこと。2014年8月末日までのPI0-NET登録分。年代等は、iPS細胞またはSTAP細胞に関連した詐欺的トラブルに関する相談の合計433件を対象に、不明・無回答等を除いて集計した。

(3) 既支払金額—平均金額は約 780 万円—

すでにお金を支払っている相談は 29 件で、100 万円以上 500 万円未満というケースが最も多くなっていますが、1,000 万円以上のケースも多く、平均金額は約 780 万円と高額でした² (図 4)。

図 4 既支払金額別相談件数



参考③ 関係機関からの注意喚起

- 「iPS 細胞作製に係る特許権の「知的財産分与譲渡権」勧誘に関する注意喚起」(平成 24 年 11 月 2 日)(消費者庁ホームページ http://www.caa.go.jp/adjustments/pdf/121102adjustments_1.pdf 参照)
- 「iPS 細胞に関連した投資勧誘に関する注意喚起について」(平成 25 年 5 月 20 日)(京都大学ホームページ http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news_data/h/h1/news5/2013/130520_2.htm 参照)

² 既支払金額の平均は、金額が 0 円のケースを除いて集計した。